

I 第40週の発生動向 (2009/9/28~2009/10/4)

- インフルエンザについて、迅速診断キットによる各保健所管内の内訳は、東地方+青森市 (A:46人, 不明1人)、弘前 (A:3人)、八戸 (A:16人, 不明1人)、上十三 (A:22人, B:1人)、むつ (A:26人, B:1人) でした。
- 手足口病については、むつ保健所管内において、前週に引き続き**警報**が、発令されています。

II 第40週五類感染症定点把握 注：五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 <small>(前週からの増減)</small>	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点
小児科 内科 (85) インフルエンザ	47	3.4	3	0.2	17	1.2			23	2.6	27	4.5	117	1.8	76	3	1.5	44	3.7
小児科 (74) RSウイルス感染症			2	0.2	1	0.1			2	0.3			5	0.1	1				
(75) 咽頭結膜熱	2	0.2									3	0.8	5	0.1	2		2	0.3	
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	0.7	5	0.6	2	0.2	2	0.4	6	1.0			21	0.5	5	1	1.0	5	0.6
(77) 感染性胃腸炎	25	2.8	7	0.8	4	0.4	8	1.6	2	0.3	6	1.5	52	1.2	15	3	3.0	22	2.8
(78) 水痘	4	0.4	14	1.6	4	0.4	2	0.4	8	1.3	1	0.3	33	0.8	17			4	0.5
(79) 手足口病	2	0.2	4	0.4	5	0.6	3	0.6	10	1.7	10	2.5	34	0.8	-14			2	0.3
(80) 伝染性紅斑	2	0.2			1	0.1			5	0.8			8	0.2	4			2	0.3
(81) 突発性発しん	4	0.4	5	0.6					3	0.5	1	0.3	13	0.3	-2	1	1.0	3	0.4
(82) 百日咳															0				
(83) ヘルパンギーナ	2	0.2			1	0.1							3	0.1	-2			2	0.3
(84) 流行性耳下腺炎	3	0.3	1	0.1	2	0.2	1	0.2					7	0.2	-1			3	0.4
眼科 (86) 急性出血性結膜炎															0				
(87) 流行性角結膜炎	3	1.5			2	1.0			1	0.5			6	0.5	6			3	1.5
基幹 (95) マイコプラズマ肺炎			2	2.0	3	3.0					2	2.0	7	1.2	-3				

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科 基幹
東地方	2	1	1	0
弘前	15	9	6	3
八戸	14	9	5	2
五所川原	7	5	2	1
上十三	9	6	3	2
むつ	6	4	2	1
青森市	11	8	4	2
合計	64	42	23	11

は警報、は注意報。「空欄」：患者発生無し。

III 表II以外の感染症法対象疾患 (注：届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患)：弘前1人、八戸2人、五所川原3人、上十三1人、むつ2人 (21年計：265人)
- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患)：青森市1人 (21年計：32人)
- (34) つつが虫病(四類全数把握疾患)：八戸1人 (21年計：11人)
- (73) 麻しん(五類全数把握疾患)：八戸1人 (21年計：9人)

過去の全数把握疾患については、月報をご覧ください。

感染症の窓

水痘

(五類定点把握)

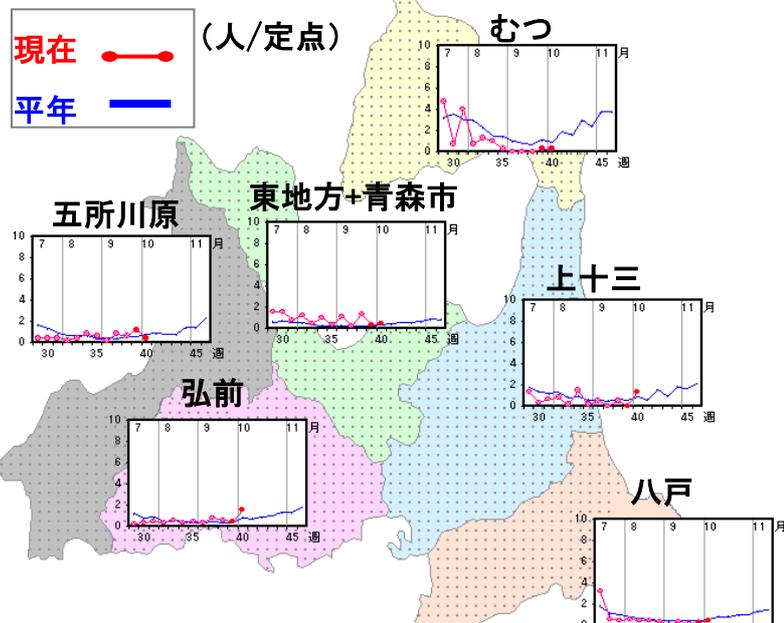


図 保健所管内別届出数 (第40週現在まで)

水痘は、水痘・帯状疱疹ウイルスによって起こる感染症です。ウイルスは、気道粘膜から侵入した後、鼻咽頭とリンパ節で増殖、更に他の器官(肝、脾など)へ拡がり増殖した後、皮ふに水疱を形成します。現在、弘前、上十三保健所管内において、僅かな増加を示し、県全体では前週比17人の増加となっています。例年、10月以降から増加することから、今後の動向に注意が必要です(左図)。家族内で患者が発症した場合の発症率は90%と報告されています。ワクチン接種については、医療機関、保健所等に相談することをお勧めします。